

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990300147		
法人名	社会福祉法人 星風会		
事業所名	グループホーム こすもす2号館		
所在地	栃木県栃木市惣社町123-3		
自己評価作成日	平成24年 6月 21日	評価結果市町村受理日	平成24年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年 7月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

委員会活動に力を入れています。委員会を中心に月1回、内部研修を行うことで職員同士のコミュニケーションの場にもなっています。情報を共有化することで利用者のサービスの向上につなげています。また、毎月勉強会を開催し、職員一人ひとりの質の向上につなげています。地域運営推進会議では、地域の方々へ多くのご出席を頂き、お互いの情報を共有することで、少しずつではありますが地域とのつながりが持てるようになってきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは田園地帯に囲まれた閑静な場所に位置している。同法人には、病院、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、デイサービス等があり、利用者も施設内で連携できる体制である。ホームでは三つの理念「①一人一人の思いを尊重し自分らしく暮らせる家づくり。②家族との絆地域との繋がりを大切にします。③尊敬と感謝する心を大切にします。」を掲げ実践に取り組んでいる。利用者には介護計画を含め、個別対応で外食や外出支援を行っており、その都度臨機応変に対応している。音楽療法も取り入れ、利用者の楽しみでもあり喜んで参加している。運営推進会議には地域住民、家族の参加があり、意見の交換やコミュニケーションを通して関係づくりを行っている。又、ISOも取得し書類の整備にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員から案を出して決定。その理念を共有できるように目の付所に掲示している。会議を利用し管理者、職員で確認する時間を設けるようにすることで実践につなげる努力をしています。	三つの理念。「①一人ひとりの思いを尊重し、自分らしく暮らせる家作り。②家族との絆、地域との繋がりを大切にします。③尊敬と感謝する心を大切にします。」を掲げており、月1回の全体会議で唱和確認し、実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ける、近隣の神社に初詣に出かけたり地域の公民館祭りに参加している。また、地域の催し物等の情報収集に努め、参加できるようにしています。	自治会には法人として加入している。自治会の公民館祭りに出席したり、年4回のお花見、夏祭り、こすもすフェスタ、文化祭の法人の催し物に参加していただき交流を図っている。また、近隣で採れた柚や七夕の竹等をいただいたりする付き合いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内では地域交流事業を年4回開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しサービスの状況を報告し、行事活動や入居状況を報告しています。出席した方々に意見を聞き避難訓練の服装等の統一を図るなど改善してきた。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、民生委員、自治会長、駐在所の警察官、利用者代表・家族、包括支援センター職員が参加し、活動報告や話し合いを行っている。「避難訓練時、誰が職員か判らない」と意見が出され「ジャージとたすきを使用する」と検討した等、出された意見をサービス向上に活かしている。又、警察官からは盗難などの情報も得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	栃木市高齢福祉課に相談、アドバイスを頂きながら協力しています。又、包括支援センターの職員の方にも推進会議に参加して頂き、事業所としてもネットワーク会議に参加する等して協力関係を築けるようにしています。	包括支援センター職員の推進会議への参加もあり、意見を伺ったり相談等している。また、ネットワーク会議(包括と民生委員)に参加し、包括主催の認知症サポーター研修を職員が受講し、協力関係を構築する取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		身体拘束については、事業所内の身体拘束委員会や内部研修を行って正しく理解するようにしている。また、言葉の拘束(ダメ等)は職員同士で気をつけており、管理者が気になった時は後で助言している。玄関の施錠は夜間のみとし、日中はセンサーチャイムで対応している。	
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や委員会を設け虐待について話し合う機会はあるが、気付かない虐待(言葉使いやケアの方法)には関心は薄いように感じる。もちろん身体的虐待はない。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護を利用している方はいらっしゃらないが、以前あすてらすにて成年後見人を立て利用した方はいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約には担当者が十分な説明を行っている。しかしなかなか口には出して言えない不安事には、様子を察してさりげなく気配りできるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートの実施や日頃の会話の中からご要望を聞き取り運営に反映させている。特に日頃の会話や表情からの意見を重点的に吸い上げるように心掛けている。	利用者の意見・要望は日常の会話から聞き取り、家族からは面会時や推進会議時・家族会時に意見や要望を伺っている。又、年1回アンケートを実施し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議を行い、各委員会活動も行っている。その中で意見交換会や情報交換を行っています。	各ユニットごとに月1回会議を開き、職員の意見や提案を話し合っている。それらの意見(利用者の個別対応をする為軽自動車購入や、利用者の送迎は業者委託など)を月1回の全体会議で話し合う機会を設け、サービス向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修参加の機会を設けています。研修後は施設内で報告会を行い研修で得たものを共有するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はあまりないが、外部研修等で交流を図り、話合う機会は少しずつだが増えている。今後は、更に交流を深めネットワークづくりをしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に見学に来て頂きご本人と面接をした上で、不安や要望を確認し信頼関係を確保するよう心掛けています。また、信頼関係を築く事はとても難しい事と感じています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談から入居するまで連絡を密にとり本人、家族の不安や要望があれば時間をかけて話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向を確認しながら必要としている支援を優先順位を設けて対応している。また他のサービスの種類も合わせて説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望を受け入れて自尊心を傷つけないよう、家族のようなふれあいを大切にしています。また1人ひとり個性があるので個性に合わせた対応は日々勉強中です。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や日々の様子はご家族に報告しています。職員が全て行うのではなく、家族でしかできない事は多々あるので随時連絡し協力して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や美容室等、これまでの関係が継続できるように家族の協力を頂きながら支援しています。	かかりつけ医や美容室など馴染みの人や場所には家族の協力を得て行っている。遠方の家族で面会の少ない利用者には買い物支援など個別対応している。また、併設の施設を利用されている家族がいる方には、面会に一緒に行くなど交流できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの性格などを把握して1日が送れるように支え合えるように努めています。しかし関わりをうけられない方がいらっしゃる事も事実です。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ移転した方の所へ面会に行き本人の経過を見守ったりご家族への連絡等も行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない仕草や発言に耳を傾け言葉にはない意向の発見に努めています。また、ご家族の話をもとに以前の暮らしに近づけるよう努めています。	思いや希望等は日々の言葉や表情で把握し、困難な場合にもしぐさや表情などで察し、本人本位で検討している。又、家族の面会時に確認したり、電話で伺い以前の暮らしに近づけるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接等でこれまでの暮らし方好み等をプライバシーに配慮しながら、少しずつ聴取し経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子を生活支援記録、業務日誌に記録し全職員が共有できるようにしながら現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人と家族の意見を確認し、また介護スタッフ等の他職種の意見も参考に作成しています。	介護計画は、利用者・家族の意見や要望を取り入れ、職員は担当者会議でアセスメントから参加し、6ヶ月ごとにモニタリングをして作成している。又、訪問看護師や医師の意見を参考にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日生活支援記録に記入して状態把握に努め、申し送り時間や随時意見交換を行い情報共有を図っています。しかし小さな発見や気づきの記載は難しい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望や要望を聞き出来る範囲で対応できるように心がけています。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容や訪問販売を利用しています。また近所の商店に買い物に出かけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に受診できるように家族の協力を得ています。また通院時には主治医に情報提供しています。	かかりつけ医の受診は家族の協力を得て行い、困難時や緊急時には職員が対応している。受診の際、日常の状態を記入したメモを作成し情報提供に努めている。希望すれば、月2回の訪問診療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師の来荘あり。日常の状態報告や相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には定期的に面会に行く等して状態の把握に努めるとともに、病院関係者との情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族との話し合いは早期に行っているが、ご家族の精神的支援も同時に行っていかなければいけない。そのためには職員の対応も統一を図らなければいけない。知識を得るだけではなく終末期について勉強を重ねていく必要は大いにある。地域との関係者とのチーム支援は課題です。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に看取りが可能であることを説明している。終末が近づいた時にも家族と随時話し合いをしている。又、訪問看護師が看取りの講師をして研修会を行い、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行っているが誰もが対応できるかといえばその限りではありません。実践力は不足しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(うち1回は夜間)と月1回こすもすとしての避難訓練を実施しているが、具体的な避難策についてはまだ課題が残る。緊急通報装置には地域住民の方々を登録しているが、参加までには至っていない。	年2回避難訓練を行っており、その内の1回は夜間訓練をしている。又、ホーム独自に月1回の避難訓練をしている。災害対策委員会もあり、緊急通報には地域住民の登録をしている。備蓄も整えており、消費期限については管理者が管理している。	緊急時の地域住民の協力を具現化するためにも、運営推進会議等に提案し、地域住民参加型の避難訓練ができる様、更なる協力体制の構築に期待したい。

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの思いを尊重し自分らしく暮らせるようプライバシーを損ねない言葉かけに注意して対応しています。	排泄時の声かけには声のトーンや場所等注意をすると共に、プライバシーを損なわないよう個別で排泄支援し、オンコールで対応している。虐待防止委員会を設け、アンケートを実施し、職員の振り返りの機会としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の持っている力を見極め自己表現したり自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にして本人の意思を尊重し希望に添えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は身だしなみを整えきた衣服を自ら選んで頂いています。散髪の希望があった場合は迅速に訪問理美容に依頼し来所して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは職員が行っているが、片付け等は一緒に行っています。	食事が楽しみなものになるよう、おやつ作りを月1～2回一緒にしている。食材は業者配達、献立も業者の立てたメニューで職員が3食作っている。同じものを食べてはいないが、見守りと共に弁当と一緒に食べる職員もいる。テーブル拭きやおしぼり準備、後片付けは一緒に行っている。	おやつ作りを楽しみにしている利用者もいる事から、利用者や家族から意見や希望を聞き、個人の残存能力を活かしながら、3食のいずれかで配膳等も一緒にできる事を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴前や外出時等には水分補給をして頂いています。その他1日何回かに分けて摂取して頂いています。食べる量も身体の状態に合わせて摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方には洗浄剤を使用し、自歯の方にはブラッシングを行って頂いています。		

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活支援記録を確認しながら排泄パターンを把握してプライバシーに配慮しながらトイレ誘導を行っています。	個人の排泄パターンを把握し、声掛け誘導により自立排泄を支援している。リハビリパンツから布パンツの使用になった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事を提供し排便チェック表を活用しています。医師や看護師に相談しながら時には薬を使用する事もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を尊重しながら、だいたい1日おきを目安に入浴を行っています。入浴時はゆっくりとその人に合わせた入浴スタイルで入浴して頂いています。	週に3~4回、午後入浴支援をしている。職員は1対1で対応し、同性・異性の介助はあるが、コミュニケーションの場として、良い人間関係を築けるように、入浴を楽しむ支援作りをしている。重度の場合は2人対応とし、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて休息を促しています。生活のリズムは崩さないよう配慮し日中は活動する事も忘れないよう心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の内服薬の説明書はいつでも見られるようにファイリングしています。勉強会を設け薬内容の確認も行っています。内服薬に変更があった際には細心の注意を図り、業務日誌や申し送りノートを活用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会、おやつ作り、お弁当購入、買い物等実施しています。その他利用者様の状態に合わせて随時外出支援などを行い気分転換を図れるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1回の外出支援や日用品購入等実施しています。ご家族様にも協力して頂き外出、外泊などができるようお声かけしています。	季節の良い時は15~20分を目安に数名ずつ毎日散歩している。週1回の外出支援の他、日用品購入のために近所へ出かけたり、併設ケアハウスに来る訪問販売へ行く支援もしている。個別には、誕生日に外食に出かけ希望の食事をしたり、お花見等の時、弁当を注文し皆で食べたりと、月1回は戸外に出かけられるよう支援している。	

星風会グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所で管理させて頂いています。必要時にはお小遣いの中から本人の希望される商品と一緒に購入できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	事務所内の電話から職員が家族に状況をお伝えした後に、本人とお電話で話せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は温湿度計にて快適に過ごせるよう気を配っています。また、切り花を飾ったりしています。	共有の空間は空調に気を配り、室温もコントロールされている。浴室も換気されトイレの汚物もこまめに処理する等、不快な臭いはない。リビングには6畳のスペースがあり、洗濯物たたみや、つくろい等をするなど、コミュニケーションの場でもある。広さも十分で色や光も刺激にならないようにしている。ホールの壁には利用者の手作りの物や季節の物が飾ってあり、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースしかない為共用空間では独りにはなりづらい。気の合った利用者様同士で過ごせるよう座席には気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら使い慣れた家具等を置いて居心地良く過ごせるよう配慮しています。	居室は4畳と板の間の部屋であり、ほとんどの人が使い慣れたベッドを持ち込み使用している。使い慣れた椅子や家具など好みの物が置いてあり、壁には写真や作品を飾ったり、本人が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人のお部屋がすぐにわかるよう花をかざったり、暖簾を掛けたりしています。廊下、トイレなどには手すりが設置されています。		